

エピソード28

おじいさんが子どもを
育てています。



なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験が
あります。
エデュサポネットのファシリテーターです。



小学校の低学年を担当していた時の
経験をお聞きします。

みおさんは、事情があっておじいさんが
引き取って育てているお子さんです。

指示したことへの反応が遅かったり、聞き
落とすことがあったり、発達がゆっくり
しているな…と思うことがありました。





先生は、みおさんに
どのような支援をしていたのですか。

みおさんが学級で安心して過ごし、
学習にも取り組めるように、時間を
かけて説明するなどの配慮をしました。

でも、その程度のサポートでは
難しいと感じることがありました。





みおさんの様子はどうでしたか。

お便りをおじいさんに見せることを忘れて、
学習道具がそろわないことがありました。

ある時、トイレに行きたいと言えず、
お漏らしをしてしまいました。そして、
1回だけでなく、その後も続いたのです。





先生は、どうしたのですか。

お漏らししたみおさんに、養護教諭が
快く対応してくれました。養護教諭は、
おじいさんにも対応してくれました。

それで、私は養護教諭にみおさんの対応に
困っていることを相談しました。





養護教諭は、どんなアドバイスを
してくれましたか。

家庭訪問の時に、まずおじいさんから
家庭での様子や困り感を聞き取り、その後
学校での様子を伝えたらいいのではないか。

おじいさんと連絡を取るときは、連絡帳で
はなく電話や家庭に伺ってお話する方が
いいと思う、と教えてくれました





養護教諭は、おじいさんについて、何か話をしてくれましたか。

「おじいさんが孫を育てるって、とても大変なことだと思う。かわいいけど不憫に思ったり。相談できる人はいるのかな。」

「おじいさんくらいの年代だと、子育ては母親任せで、仕事一筋ってこともあったかもしれないし。」と話してくれました。





養護教諭の話聞いて、
先生はどう思いましたか。

養護教諭の「おじいさんも、慣れない
子育てをしているのだから、直接会って
話した方が安心するだろうし、サポート
にもなると思う。」という言葉聞いて、
みおさんだけでなく、おじいさんも
サポートできたらいいなと思いました。





なみちゃんの一言

- 子どもの家庭環境はさまざまです。保護者にも支援が必要な場合があります。
- そんな時は、教師一人で抱え込まず、校内の先生や関係機関と連携して、保護者を支えていけるといいですね。
- 直接会って話をする、顔の見える支援で信頼関係を築くことも大切です。

お・し・ま・い



イラスト 尾上樹里
(北海道教育大学 大学院生)